



Tokyo Tech

東京工業大学の学生支援

～教育改革による学修支援を中心に～

平成29年7月10日(月)

千葉大学 アカデミック・リンク・センター

ALPSプログラム 第3回シンポジウム

学生支援センター 学修コンシェルジュ 特任教授 伊東 幸子
学務部 学生支援課 課長 堤田 直子

(発表は両名の個人的見解であり、組織の意見を代表するものではありません。)

- 東京工業大学の歴史とキャンパス及び概要
- 東京工業大学の使命と教育改革に関するメッセージ
- 教育改革の主な内容
- 学院と従来の学部・大学院との関連
- リベラルアーツ研究教育院
- 主な学生支援
- 学修コンシェルジュ
- 課題

東工大の歴史とキャンパス



1881年5月

1890年3月

1901年5月

1929年4月

1949年5月

2004年4月

2016年5月26日

東京職工学校設立

1890年
手島精一
校長就任

東京工業学校と改称

1884-92年
ワグネル博士

1882年
蔵前に校舎

東京高等工業学校と改称

1916年退任

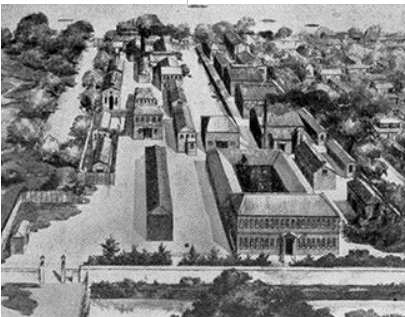
東京工業大学へ昇格

1923年 1924年
関東大震災⇒大岡山へ

国立東京工業大学新設

国立大学法人
東京工業大学設立

創立
135周年



東京職工学校の校舎全景
(蔵前)



東京高等工業学校の本館
(蔵前)

1906年(同窓会)
蔵前工業会



1941年 キャンパス全景(大岡山)



現在の東京工業大学本館
(大岡山)

東工大の概要と特徴

●学生数

- ・大学院生が半数を占めること
- ・留学生割合が高いこと
- ・女子学生割合に伸びしろがあること

●特徴

<全体>

- ・理工系単科の研究大学(キャンパスは3つ)
- ・学部・研究科の独立性が、旧帝国大学と比較すると低いこと。

<教育・学生>

- ・特に理数系で優秀な学生の集団
- ・典型的な進路は、修士課程まで進学し企業就職。有名400社入社率は高い/中退率は低い
=> 基礎学力、リテンション、就職に問題ない。

学生数・教職員数

	人数	
学士課程	4,780	内留211, 女子572
大学院課程	5,052	内留870, 女子900
教員	1,127	
職員	613	内技術職員124

●QS世界大学ランキング 2016-2017

総合：56位(日本国内 3位)

自然科学：24位(日本国内 3位)

工学：18位(日本国内 2位)

社会科学・経営学：216位(日本国内 8位)

生命科学・医学：321位(日本国内 13位)

芸術・人文科学：335位(日本国内 13位)

●THE世界大学ランキング 2016-2017

総合：251-300位(日本国内 4位)

工学：62位(日本国内 4位)

●THE世界大学就職ランキング 2016

20位(日本国内 2位)

東京工業大学の使命

新しい活力ある社会を切り拓く

- 世界に雄飛する気概と人間力を備え、科学技術を俯瞰できる、優れた理工人材を輩出する
- 人間社会の持続可能な発展を先導する革新的科学技術の創出と、体系化によって社会に貢献する

世界最高の理工系総合大学：
「世界トップ10に入るリサーチユニバーシティ」を目指す

教育

グローバル社会で活躍する
修士人材の輩出

世界トップレベル研究者・リーダーとしての博士人材の輩出

- 教育の量的拡大から質的充実への転換
 - ・ 教育密度の向上
 - ・ 世界トップレベルの教育の質

社会貢献

教育及び研究成果の
社会への還元

大学の知を活用して
豊かな社会作りに貢献

国際活動

国際的教育研究環境の構築

先端科学技術を創造、世界へ普及、
伝承していく国際活動と教育研究

研究

世界的な研究成果と
イノベーションの創出

システム・基盤整備による
研究力の強化

- 研究実施・支援体制の改革
 - ・ 研究組織の再構築と環境整備により、研究力をさらに強化
 - ・ 若手研究者に対する多段階の支援

ガバナンス改革

(1) 運営組織, キャンパス機能改革

(2) 人事改革

(3) 財務改革

学長からの学生に向けたメッセージ



将来、科学・技術の力で世界に貢献するため、
学生が自ら進んで学び、鍛練する“志”を育てます。

東京工業大学 学長 三島 良直

★教育改革の目的

- ①ポテンシャルのある学生をもっと伸ばす教育
- ②学生がより主体的に将来を考えて自分で選択しながら学べるようにする。

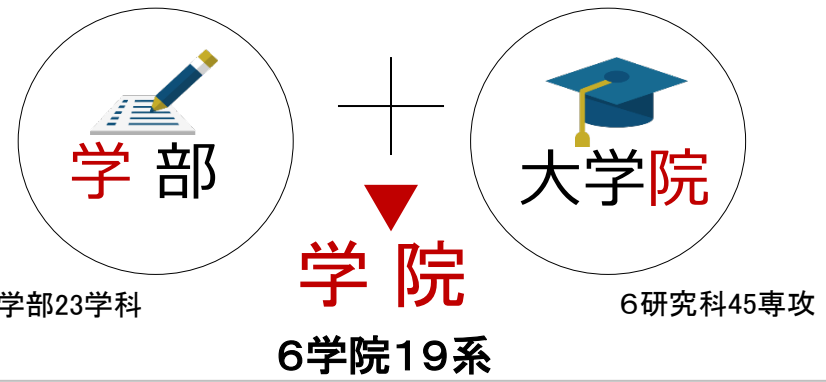
教育改革の主な内容1

学修・修博一貫教育

学士課程と修士課程，修士課程と博士課程の教育カリキュラムが継ぎ目なく学修しやすく設計された教育体系です。入学時から大学院までの出口を見通すことができるので，自らの興味・関心に基づく多様な選択・挑戦が可能になります。

学院の誕生

日本の大学で初めて，学部と大学院を統一します。



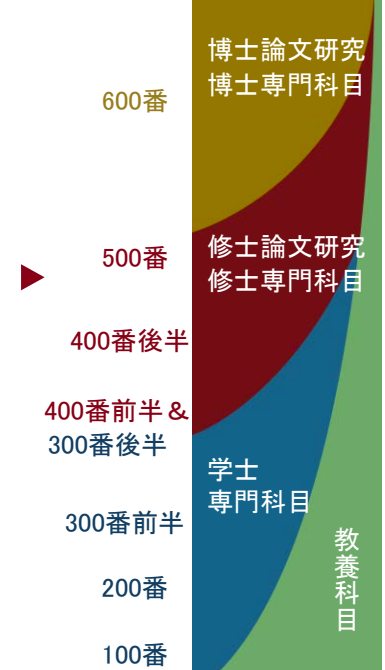
達成度評価

「何をどれだけ学んだか」を評価し，学年進行から達成度進行に変わります。学修ポートフォリオ等を用い，履修の過程・結果を評価します。

現在



【ナンバリング】



改革後

【体系的な教育システムとアウトカムズ】6学院19系と1専門職学位課程という大ぐくりにした教育プログラム(系・コース)の**ポリシー**により，カリキュラムの達成目標を示します。また，**科目ナンバリング**や科目関連図を通じて**全体的な教育体系**を明示し，**シラバス内容の充実**(各回の授業内容，身につける力，評価方法などを日本語・英語で公開)により，科目ごとの**学修内容を理解**させます。これらを通じて，学生には**キャリアパスを意識**し，**目標とするアウトカムズに沿った学修**を促します。

【早期卒業等】学院に統一され，学修・修博一貫のカリキュラムが実施しやすくなること，また，**達成度評価**，上位課程科目の先取り履修などにより，やる気がある優秀な学生に**早期卒業(短縮修了)**を促します。

【教養教育等と専門教育のバランス】学士課程から博士課程まで**教養科目を必修**とし，専門教育とバランスさせます。大学院課程では，**キャリア科目も必修**とします。学士課程入学直後には理工系基礎科目を履修させるのに加え，**レクチャーシアター**(H27.4新設)で学内外の最先端研究者などの声を直接聴き，**創造的討論や実験の実演を伴った双方向授業を行い**，**学生の意欲を喚起**します。



教育改革の主な内容2

クォーター制

第1 クォーター	第2 クォーター	夏休み	第3 クォーター	第4 クォーター
4月上旬～6月上旬	6月中旬～8月上旬	8月中旬～9月中旬	9月下旬～11月下旬	12月上旬～2月上旬

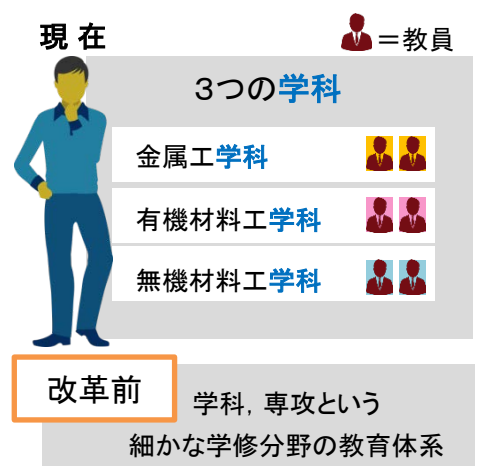
- 一科目を短い期間で集中的に学ぶことで学修効果を高めることができます。
- 履修計画を柔軟に組むことができ、授業履修等に影響なく留学やインターンシップが実施可能となります。特に、学士課程3年目第2クォーターには、必修科目を設定しません。
- 必修科目等の実施回数が増えるため、学生ごとの学修の進捗に細やかに対応できます
- 海外の多くの大学と学期の開始時期が共通となるため、留学生を受け入れやすくなります。

世界トップスクールとチューニングするカリキュラム

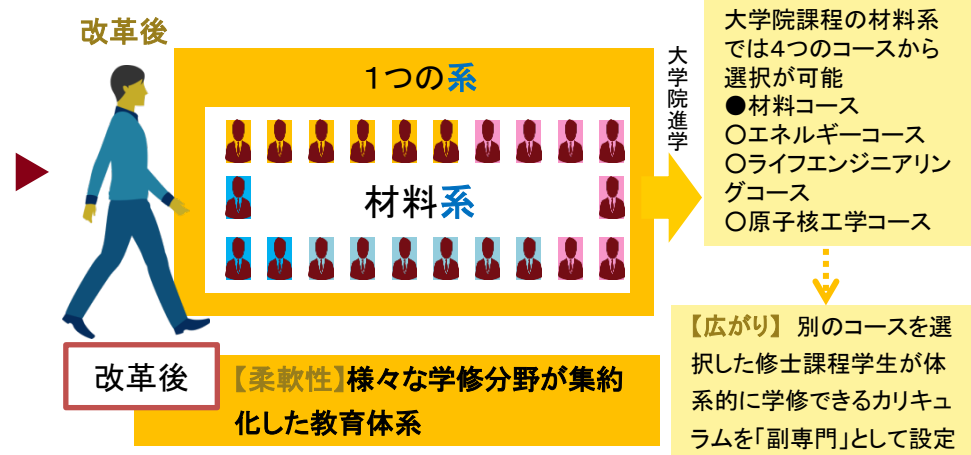


広がり柔軟性がある選択

例) 材料分野を学びたい学生の場合



★コースとは、学院の系で実施される大学院課程の教育プログラム。社会のニーズに応じて、コース設定等の見直しを現在より柔軟にできる構造。下記○印は、複数の系が横断的に実施するコース。



新しい教育システムを活用するために

【学修ポートフォリオ】学修ポートフォリオを使い、学生はカリキュラム全体の達成目標と学修目標、また自分が身につけた力を確認し、キャリア形成に生かします。

【アカデミック・アドバイザー】学士課程入学から担当教員がアドバイザーとなり、定期的な面談などで達成目標やアウトカムズを意識させます。

学院と従来の学部・大学院との関連

3学部・6研究科を6学院に、23学科・45専攻を19系に統合・再編し、世界トップスクールとしての教育システムを構築

従来の学部・学科
(3学部・23学科)

改革後の学院・系 (6学院・19系)

従来の大学院・専攻
(6研究科・45専攻)

理学部

理学院

数学系
物理学系
化学系
地球惑星科学系

理工学研究科 (理学系・工学系)

数学専攻 基礎物理学専攻 物性物理学専攻
化学専攻 地球惑星科学専攻
物質科学専攻
材料工学専攻 有機・高分子物質専攻
応用化学専攻 化学工学専攻
機械物理学専攻 機械制御システム専攻
機械宇宙システム専攻
電気電子工学専攻 電子物理学専攻
通信情報工学専攻
土木工学専攻 建築学専攻
国際開発工学専攻 原子核工学専攻

数学科
物理学科
化学科
情報科学科
地球惑星科学科

工学院

機械系
システム制御系
電気電子系
情報通信系
経営工学系

生命理工学研究科

分子生命科学専攻 生体システム専攻
生命情報専攻
生物プロセス専攻 生体分子機能工学専攻

工学部

物質理工学院

材料系
応用化学系

金属工学科
有機材料工学科
無機材料工学科
化学工学科
高分子工学科
機械科学科
機械知能システム学科
機械宇宙学科
制御システム工学科
経営システム工学科
電気電子工学科
情報工学科
土木・環境工学科
建築学科
社会工学科
国際開発工学科

情報理工学院

数理・計算科学系
情報工学系

総合理工学研究科

物質科学創造専攻 物質電子化学専攻
材料物理学専攻 環境理工学創造専攻
人間環境システム専攻 創造エネルギー専攻
化学環境学専攻 物理電子システム創造専攻
メカノマイクロ工学専攻
知能システム科学専攻
物理情報システム専攻

生命理工学院

生命理工学系

情報理工学研究科

数理・計算科学専攻 計算工学専攻
情報環境学専攻

生命理工学部

環境・社会 理工学院

建築学系
土木・環境工学系
融合理工学系
社会・人間科学系 (大学院課程のみ)
イノベーション科学系 (大学院課程のみ)
技術経営専門職学位課程 (専門職学位課程のみ)

社会理工学研究科

人間行動システム専攻 価値システム専攻
経営工学専攻 社会工学専攻

リベラルアーツ 研究教育院

教養系教育を実施
※学生の所属先ではない

イノベーションマネジメント研究科

技術経営専攻 イノベーション専攻

学院、系及びコース等の構成

- ✓ 基本は類に対応する系に進みます。
- ✓ 大学院に入学する時には、どのコースでも選べます。

学院、系及びコース等の構成



		学士課程 (1年目)	学士課程 (2~4年目)	大学院課程 (修士・博士後期課程)			
理学院	● 数学系	第1類	数学系	数学コース			
	● 物理学系	第1類	物理学系	物理学コース			
	● 化学系	第1類	化学系	化学コース	エネルギーコース		
	● 地球惑星科学系	第1類	地球惑星科学系	地球惑星科学コース			
工学院	● 機械系	第4類	機械系	機械コース	エネルギーコース	エンジニアリングデザインコース	ライフエンジニアリングコース
	● システム制御系	第4類 第5類	システム制御系	システム制御コース		エンジニアリングデザインコース	
	● 電気電子系	第5類	電気電子系	電気電子コース	エネルギーコース		ライフエンジニアリングコース
	● 情報通信系	第5類	情報通信系	情報通信コース			ライフエンジニアリングコース
	● 経営工学系	第3類 第4類	経営工学系	経営工学コース		エンジニアリングデザインコース	
物質理工学院	● 材料系	第2類	材料系	材料コース	エネルギーコース		ライフエンジニアリングコース
	● 応用化学系	第3類	応用化学系	応用化学コース	エネルギーコース		ライフエンジニアリングコース
情報理工学院	● 数理・計算科学系	第1類	数理・計算科学系	数理・計算科学コース			知能情報コース
	● 情報工学系	第5類	情報工学系	情報工学コース			知能情報コース
生命理工学院	● 生命工学系	第7類	生命工学系	生命工学コース			ライフエンジニアリングコース
環境・社会理工学院	● 建築学系	第6類	建築学系	建築学コース		エンジニアリングデザインコース	都市・環境学コース
	● 土木・環境工学系	第6類	土木・環境工学系	土木工学コース		エンジニアリングデザインコース	都市・環境学コース
	● 融合理工学系	第4類 第6類	融合理工学系	地球環境共創コース	エネルギーコース	エンジニアリングデザインコース	原子核工学コース
	● 社会・人間科学系			社会・人間科学コース			
	● イノベーション科学系			イノベーション科学コース(博士課程)			
	● 技術経営専門職学位課程			技術経営専門職学位課程			
リベラルアーツ研究教育院		教養系科目 (全課程を通して継続的に履修)					

※コースとは、学院の系で実施される大学院課程の教育です。

リベラルアーツ教育

リベラルアーツ研究教育院 (ILA: Institute of Liberal Arts) による「大きな志を育てる」教養教育

平成28年度から始まる東工大の新しい教養教育は、豊かな社会性・人間性をもって専門的な知を実社会で活かしていくことのできる、志ある人材を育成します。学部入学直後からの小グループでのディスカッション、プロジェクト発表に始まり、仲間と刺激を与え合いながら、高い問題意識のもとに、優れたコミュニケーション能力を持って世界へと発信し、実現していく力を養っていきます。また人文科学、社会科学、外国語、ウェルネス等の広範な分野に触れることで、多様性に満ちた現代社会の中での自分の立ち位置を明確化していきます。学士課程、修士課程及び博士後期課程の専門教育と教養教育をダイナミックに組み合わせて、将来社会を牽引する、創造性溢れた魅力ある人間を目指します。輝ける原石である学生諸君の潜在性を揺り動かし、学修して良かった、楽しかった、ためになった、成長したと実感できる、そして、知的好奇心を満足させるような教養教育がスタートします。



ファシリテーション

ピアレビュー

400番台

300番台

教養
卒論

必修/2単位

選択必修/1単位

リーダー
シップ道場

ピアレビュー
実践

リーダー
シップ
アドバンス

選択必修/1単位

東工大の教養科目の最終地点にあたる、博士後期課程学生向けの選択必修科目。最先端の研究の「種」や高度な教養的知識を、グループによる研究や発表を通じて共有します。発表の場は、さながら「学会の大会」。「学生プロデュー

600番台

学生
プロデュー
ス
科目

教養先端
科目

100番台
東工大
立志
プロジェクト

必修/2単位

入学直後に全学生が履修する必修科目。4年間の教養教育を、各自のゴールに向かって志を立てるプロジェクトととらえ、そのための自己発見と動機付けを行う科目です。講堂での大人数講義(600名×2)と、少人数でのグループワーク(30名×20クラス×2)を交互に行います。グループワークでは、自ら考え、問題を発見し、他者に表現することを通して、コミュニケーション・プレゼンテーションのスキルを高めます。

3年生で履修する学部教養教育の出口となる科目。新しい教養教育では、ひとりひとりが自分の目的にあった「学びのストーリー」を描くことが大切。これまでの教養教育で何を学んだのか、またはそれは今後の自分のビジョンにとってどう生きてくるのか、A4で3枚程度にまとめます。執筆は、小グループ単位で修士課程の学生のピアレビューをうけながら行います。



《教養教育の骨格をなす2年ごとの教養コア学修》

※科目名や内容は変更になる可能性があります。

主な学生支援

学修コンシェルジュ

東工大の学修について、アドバイスしたり、本学の教育体系・システムの目的を説明したりします。希望に応じて、適切な支援窓口も紹介します。

学修相談室・TA・チューター

博士後期課程学生が修士課程学生を、修士課程学生が学士課程学生を教える、あるいは、同分野・異分野の学生同士が教え合う環境です。

学生相談室・保健管理センター

学生相談室は、どんなことでも気軽に相談できるところです。
保健管理センターでは、心身の健康管理をサポートします。



アカデミック・アドバイザー

教員が、アカデミック・アドバイザーとして、学生一人一人を担当します。学生の成績や履修状況等を考慮しながら、相談や指導を行い、将来の夢や今後の学修計画の実現をきめ細かくサポートします。

キャリアアドバイザー

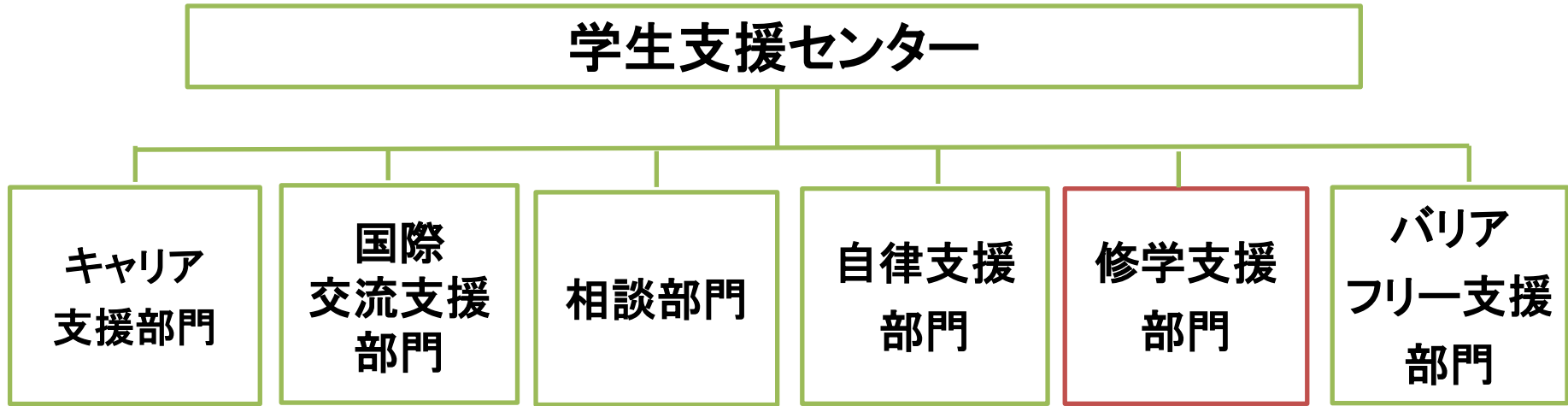
キャリアアドバイザーが、理工系である東工大生に合わせたキャリア形成の支援をします。

教育革新センター

Teaching Assistant (TA) や、チューターとなるための学修支援をします。

学生の自主的な活動を支援する組織

大学における大学教育の一環として、日本人学生、留学生を問わず全ての本学学生に対し、次条に定める支援業務を総合的に行い、もって、学生の人間的な成長及び自律を図り、科学技術の高度な専門能力を基礎とする豊かな創造性を兼ね備えた社会のリーダーとなり得る人材の育成に資することを目的



東工大生をさらに成長させる学修コンシェルジュ

★教育改革の目的

- ①ポテンシャルのある学生をもっと伸ばす教育
- ②学生がより主体的に将来を考えて自分で選択しながら学べるようにする。

- ・大学生としての気づきを促す。
- ・本学が導入した学修システムの学修上の意義を修得させる。
- ・本学の特徴的な教育体系の意義を修得させる。
- ・学修のための仕組みに関する情報を提供する。

◆所属組織：学生支援センター 学修支援部門

◆メンバー：特任教授1(常駐)、特任専門員1(週3日)、事務職1(常駐)、
同窓会(蔵前工業会)メンバー6(常駐ではない)



個別問合せ・相談、小セミナーのスペース
(オープンな相談スペース)



学生談話室、ガイダンスや小セミナーのスペース
(ソファ、椅子とテーブルなど約20席分)

学修コンシェルジュ窓口の所在地：東京工業大学 大岡山キャンパス
80年記念館1階

1. 東工大学修コンシェルジュ 導入のきっかけ

1) 導入のモチベーション:

新システムで初めて学ぶ学士1年生が
教育改革の趣旨に沿って、教育改革後のシステムの意義を理解し

「より主体的に、将来を考えて自分で選択しながら学べるように。」

(海外トップクラス理工系大学の学生はもっと勉強している！)

★2016年学士1年生は、はじめての大学生活、

はじめての東工大+はじめて教育改革後のシステムで学ぶ学生

★先輩学生に話を聞くことができない(特に履修関係)、

新しいシステムは、教職員であっても不慣れ

→学士課程1年生の、新システムの東工大での学生生活へのスムーズな適応に向けて、
学修コンシェルジュが、まずは、入学時の少人数ガイダンスで歓迎し、
その後の個別の問合せ・相談へのワンストップ窓口になることで支える。

★学生のリテンション、基礎学力不足学生への対応が主目的ではない。学生の「自主性」
を伸ばす、ポテンシャルがある学生をもっと伸ばすことが目的。

1. 東工大学修コンシェルジュ 導入のきっかけ



★「より主体的に学ぶ」ことを具体的に促進するには？

- ・最初の履修申告(＝正課内活動の選択)で、東工大の教育システムの全体像を理解した上で、自分の興味関心や将来を考え、履修選択ができるように
(より具体的には、必修科目以外に、何を？どの程度？いつ？履修するか。)
- ・サークル選び(＝正課外活動の選択)で、より積極的に活動に参加できるように
→入学当初の支援が重要と考えた。(＝鉄は熱いうちに打て)

1. 東工大学修コンシェルジュ 導入のきっかけ



2) 理論的背景

学生エンゲージメントに関する研究群の知見:

学生の大学生活に対するエンゲージメントを高めれば、学生のアウトカムが高くなる。

初年次学生時の大学のサポートについての学生自身の知覚が良い学生, つまり, 初年次に大学の教職員から自分が必要とする学業上・学業以外に必要なサポートを受けられていると知覚している学生, 教職員と良い関係を築けていると知覚している学生は, **自身のアカデミックコンピテンスについて高いと知覚している。**

Reason, R. D., Terenzini, P. T., & Domingo, R. J. (2006). First things first: Developing academic competence in the first year of college. *Research in Higher Education*, **47**(2), 149-175.

2. 東工大学修コンシェルジュの役割

東工大学修コンシェルジュ ホームページより:
<http://www.titech.ac.jp/enrolled/counseling/concierge.html>

東京工業大学の学修コンシェルジュは、学生の皆さんが、**入学当初に抱く疑問**や、**学修上困っている問題の解決**に向けて支援します。

東工大をより良く理解できるように、**東工大ならではの学修システムや教育体系**等に関する学修上の意義をお伝えします。また、**適切な相談窓口や相談相手**を紹介します。

東工大生として「自ら考え、自ら行動し、学修する力を身につける」ために、
学修コンシェルジュは学生の皆さんを応援します。

ウェブサイト上にのせている 相談内容例

「履修申告、時間割について相談したい」

「授業以外に、もっといろいろやってみたい。どんなことができるだろう？」

「社会経験豊富なOBに相談してみたい」

「先生、事務ではない、中立的な意見を聞いてみたい」

「困っていることがある、でも、どこに聞けばよいのかわからない」

「担当部門に問い合わせたが、いまひとつ納得がいかない、ゆっくり話がしたい」

「学修ポートフォリオの書き方、アカデミックアドバイザーの先生との面談の準備」

「系選択、研究室所属、留学、就職・・・進路について考えたい」

「学修で困っているが、先生に相談するのは少々ハードルが高い」

「将来の夢が持てなくて困っている」・・・など

3. 東工大学修コンシェルジュの具体的活動

1) 新入学生対象 学修ガイダンス(学士課程、大学院課程それぞれ開催)

①2017年 学士課程1年生対象「学修コンシェルジュによる学士課程1年生対象ガイダンス」

- ◆日程：4月5日(水)～4月19日(水)昼休みまたは夕方の50分で実施。
 - ◆形態：1ユニット(約14名)・2ユニット(約28名)ごとに学修コンシェルジュ1名がつく。
合計69クラス実施。
 - ◆ガイダンス内容：
 - ・学修コンシェルジュからのガイダンス
(東工大の歴史、学生生活、教育システムの特徴、時間割の基本、授業以外に東工大でできること)
 - ・ユニット学生の自己紹介
 - ・2・3年生による後輩への歓迎のメッセージ
 - ◆出席率：**87.8%**(対象者1,123名中986名が出席)(参考:2016年度の出席率は73.9%)
 - ◆受講生アンケート結果(出席者986名中,回答者数927名)
 - 設問1:ガイダンスを聞いて,自分が東工大の一員という感覚を感じるようになった。(＊72%)
 - 設問2:ガイダンスは,自分が東工大でうまくスタートする助けになりそうだ。(＊72%)
 - 設問3:履修科目について,有益なアドバイスがもらえた。(＊61%)
 - 設問4:授業以外にも,東工大で何かに取り組んでみようと思った。(＊79%)
 - 設問5:困った時にどこに相談に行けば良いかわかった。(＊91%)
- (＊:あてはまる,ややあてはまるの合計割合)

3. 東工大学修コンシェルジュの具体的活動

「2017年 学修コンシェルジュによる学士課程1年生対象ガイダンス」の様子



3. 東工大学修コンシェルジュの具体的活動

「2017年 学修コンシェルジュによる学士課程1年生対象ガイダンス」の様子



3. 東工大学修コンシェルジュの具体的活動

2) 問合せ・相談

学修コンシェルジュ
相談件数一覧

年月	件数(件)
2016年4月	47
2016年5月	10
2016年6月	14
2016年7月	10
2016年8月	8
2016年9月	14
2016年10月	22
2016年11月	7
2016年12月	6
2017年1月	7
2017年2月	4
2017年3月	6
計	149

2017年3月31日現在

学修コンシェルジュ
相談件数一覧

年月	件数(件)
2017年4月	93
2017年5月	17
2017年6月	
2017年7月	
2017年8月	
2017年9月	
2017年10月	
2017年11月	
2017年12月	
2018年1月	
2018年2月	
2018年3月	
計	110

2017年6月5日現在

★問合せ・相談の特徴:

- ・履修申告時期(4月、10月)が多い。
- ・1年目→2年目で相談件数が大幅に増加。
- ・2年目の4月は、ピアサポーター学生との協業開始。
学修ガイダンス終了後、個別の問合せ・相談がある学生は、まずはピアサポーター学生に相談に行くよう案内。ピアサポーター学生には、学修コンシェルジュの倍程度の問合せ・相談があった。
- ・履修関係の問合せ・相談には、教務課や各部局と連携しつつ、教職員コンシェルジュが対応。キャリアや就職に関連する相談は、OBコンシェルジュにつなぐ。

3. 東工大学修コンシェルジュの具体的活動

3) (正課外) セミナー 「系の選択どうしよう 教えて先輩」(2016年秋)



学士課程1年生が2年次に所属する「系」をどう選ぶかについて、OB学修コンシェルジュ、ピアサポーターの先輩学生それぞれの立場から、アドバイスをするセミナー。



4. 東工大学修コンシェルジュ職に必要な資質・能力・経験

- (東工大の)学生の特質、及び大学の事情をよく理解し、学生に対して適切に機能できる。
(ガイダンス講師、個人相談(修学、キャリア)、問合せ対応)
 - 学生向けのガイダンスやセミナーの企画・運営・実施ができる。
 - チームワークができる。
(複数の学修コンシェルジュが、学生に対して同じ内容を伝えられる。)
 - 学内他部署と連携調整ができる。
 - 学生や大学教育に関する知識・理論をタイムリーに学べる。
 - 学修コンシェルジュが所属する部門の運営に関与できる。
- 東工大での経験(学生として・教職員として)
+プロジェクトマネジメント経験 +専門性(学生支援、初年次教育)

5. 東工大学修コンシェルジュ 課題

- ・入学時ガイダンス、個別問合せ・相談対応、ピアサポーターとの協業については、参加人数という点で、スタート2年目に一定の成果。
 - ・正課外セミナーの活性化(学生がなかなか集まらない)。
 - ・「組織としての継続性につなげる、次の一手をどうするか？」
 - ・2017年度は「東工大生のためのマインドセット」と題して、合計7回シリーズの自由参加スタディ・スキルセミナーを開催中。
- (大学生としての学修の心構え、本の読み方、ノートの取り方、
Learning preferences、学修ポートフォリオの書き方、教員とのコンタクトなど)

新しい学修支援を担う人材

★学修コンシェルジュのような仕組みを作り上げる人材

【基本】所属部署の職員としてだけでなく「大学職員」という立場で自分の意見と意欲を持ち、客観的に伝え、行動する。

【必要なこと】担当部署と大学の業務精通、大学ビジョンの理解、高等教育政策の情報収集、幅広いコミュニケーション…

★新しい学修支援を担う人材とは？

【基本】

「仕組を作る人(プロデューサー)」+「仕組みを回す人(専門家)」の**組み合わせ**。
必要に応じて、学内他部門(教務課など)と連携し、外部人材(同窓会など)に入ってもらおう。

【人材育成上必要なこと】

- ・プロデューサー側は、部門をまたがった人事異動を経験していることがメリットとなる。
- ・専門家側は、学生支援部門内及び隣接部門での人事異動(キャリア支援、修学支援、バリアフリー支援、教務など)をしつつ、複数の職種(学生相談、事務)を経験し、必要に応じて専門的なOff-JT(資格取得、学位取得など)を経験できるよう育成するのが良いのでは。
- ・プロデューサー側はもちろん、専門家側も、短期的なポジションではなく長期育成が可能な処遇(専任職員、またはそれに準ずる長期的な雇用形態)であることが重要。

教育改革～学生支援～の課題

- ◆ 教員、職員、在学生、受験生(保護者)の理解促進
- ◆ カリキュラムの質、学生の教育効果を評価
- ◆ 学生の変化に応じて改善される学生支援
- ◆ 学生が主体的に活動するための支援と、大学と学生との連携拡大
- ◆ 「学生支援」のミッションの明確化
- ◆ 学生支援関連の組織の一体化と他部門との有機的な連携
- ◆ 「学生支援」は、「研究」「教育」に続く、大学の大事な柱であることを明確化
- ◆ 継続的な大学改革のPDCA



Tokyo Tech

ご清聴ありがとうございました

